

運営、実行合同委員会

五月十五日、研究会終了後、柿崎、高橋、安原、長谷川、高山、安孫子各委員と事務局島崎、吉沢が参加し、運営、実行両委員の合同委員会を開催しました。そこで協議したのは次の事項でした。

一、特別会計について、

三十周年記念事業として座談会をおこないこれを通信の特別号として発行する経費と講演会の経費の一部を負担する経費をまかなうため、会員に一口千円のカンパを呼びかけることを決定した。なおカンパ目標募金額を三〇万円とし、不足分は基金より支出する。特

別会計の予算案は次の通りです。

収入	カンパ	基金		300,000	200,000	500,000
		計				
<hr/>						
支出	(座談会)					
	会場	費		3,500		
	交通	費		110,000		
	昼食	費		70,000		
	アルバイト	謝金		30,000		
	印刷	費		150,000		
	郵送	料		60,000		
	(講演会)					
	交通	費		30,000		
	アルバイト	謝金		30,000		
	(共通費)					
	予備	費		16,500		
		計		500,000		

備考

① 交通費は座談会出席者（東北一、関西一を含む）の交通費、車代です。

② アルバイト謝金は、座談会、講演会のテープを原稿化をする作業への謝金です。

③ 昼食費は座談会出席者と司会、事務局の分です。

二、講演会について

すでに講師として福武直、竹内利美両会員は決定済でしたが、経済史から島田隆会員にお願いすべく交渉中でしたが、ご都合がつかないご様子でしたので、改めて綿谷赴夫会員（農業経済学）に交渉

することになりました。

講演会の司会は大会開催校の田原音和会員にお願いする。

三、大会報告者

(一) 通信（次号、六月発行予定）で公募する。公募の締切りは七月五日とする。

(二) 大会の報告者は、発表時間、年報編集などの観点からみて五人程度とする。

(三) 大会報告の編成については実行委員、運営委員にアンケートを發送する。

(四) 公募とアンケートの結果を、七月十日（土）に開催予定の運営、実行合同委員会で審議して決定する。

四、その他

(一) 学術会議から要請のあった社会学研究委員会への村研からの委員としては、柿崎京一会員を推せんする。

(二) 『村落社会研究』の復刻（御茶の水書房）については編集責任者安原会員、前々編集責任者柿崎会員が書店とのあいだであらためて話し合いをもつ。

(三) 『村研通信』の残部は事務局に集め、希望する会員、非会員に配布するようにする。

ただし、村研活動の基金確保のためにも、有料とし郵送費も含め若干の費用をいただいてはどうかということとなった。